

フィリピン国

フィリピン国
医療アクセス不均衡の是正を目的と
した、医療連携サービス機能が付属
した PACS システムの
ニーズ確認調査
調査完了報告書

2026 年 5 月

インフィニティメディカルソフト株式会社

目次

I. 事業計画書	5
1. 自社戦略における本調査の位置づけ.....	5
2. 市場環境.....	5
2.1. 市場規模・推移.....	5
2.2. 医療機関の状況.....	6
2.3. 医療情報システムパッケージの動向.....	7
2.4. クラウド型 PACS・医療連携サービスの動向.....	8
2.5. 競合動向（PACS）（一部非公開）	10
3. ターゲット顧客・ニーズ.....	11
3.1. 訪問実績.....	12
3.2. 訪問施設のシステム導入状況について（一部非公開）	13
3.3. ターゲット顧客.....	13
3.4. ターゲット顧客のニーズ（顧客の直面している問題）（一部非公開）	15
4. 製品・サービス概要.....	18
4.1. PACS（オンプレミスパッケージ）（一部非公開）	18
4.2. クラウド型 PACS サービス（クラウドサービス）	19
5. フィージビリティ（技術／運営／規制等の実現可能性）	22
5.1. 技術・価格の現地適合性（一部非公開）	22
5.2. 市場性.....	25
5.3. 法規制・その他障壁	28
6. ビジネスモデル（実施体制／顧客やパートナーに提供する価値等）	30
7. 将来的なビジネス展開、ロードマップ（企業秘密のため非公開）	32
II. ロジックモデル.....	33

略語表

略語	正式名称	日本語名称
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations	東南アジア諸国連合
CD-ROM	Compact Disc Read-Only Memory	データを記録した光ディスクで、読み取り専用の記憶媒体
COVID-19	Coronavirus Disease 2019	2019 年に発見された新型コロナウイルスによる感染症
CT	Computed Tomography	コンピュータ断層撮影
DICOM	Digital Imaging and Communications in Medicine	医療用デジタル画像と通信の標準規格
DOH	Department of Health	フィリピン保健省
DX	Digital Transformation	デジタルトランスフォーメーション
EMR	Electronic Medical Records	電子カルテ
HIS	Hospital Information System	病院情報システム
HL7	Health Level Seven	医療情報システム間でデータをやり取りするための国際標準規格
IT	Information Technology	情報技術
JIS	Japanese Industrial Standards	日本産業規格
LGU	Local Government Unit	地方自治体
MRI	Magnetic Resonance Imaging	磁気共鳴画像診断技術
NPC	National Privacy Commission	国家プライバシー委員会
PACS	Picture Archiving and Communication System	医用画像管理システム
PhilHealth	Philippine Health Insurance Corporation	フィリピン健康保険公社
PoC	Proof of Concept	概念実証（実証実験）
PR	Public Relations	パブリック・リレーションズ（宣伝・広報及び、その活動）
RIS	Radiology Information System	放射線科情報システム
SI	System Integration	複数の情報システムや機器、ソフトウェアを連携・統合し、全体として一体的に機能させること
UHC	Universal Health Care	ユニバーサル・ヘルス・ケア（国民皆保険）
USB	Universal Serial Bus	電子機器同士を接続し、データ通信および電力供給を行うための標準的なインターフェイス規格

現地医療機関・調査風景（写真）



マニラ 民間病院
訪問風景



マニラ がん専門病院
現地視察風景



病院グループ法人 Head Office
ディスカッション風景



マニラ クリニック
現地視察風景



パンパンガ州 民間病院
施設見学風景



移動中の食事風景



マニラ 国立病院
放射線科医師より当社スタッフ指導風景



カビテ州 州立クリニック
訪問風景



ADB (Asia Development Bank)
訪問



ダバオ 民間病院
放射線科スタッフとディスカッション風景



ダバオ 国立病院
ER 視察風景



ダバオ 民間クリニック
視察風景



カビテ州 公立クリニック
視察風景



カビテ州 国立病院
ディスカッション風景



カビテ州 州立病院
放射線科視察風景



カビテ州 市立病院
放射線科視察風景



ケソン州 州立病院
ディスカッション風景



ケソン州 民間病院
院内見学風景

I. 事業計画書

本報告書冒頭に記載の調査を実施した結果として、当社が作成した事業計画書を以下に示す。

1. 自社戦略における本調査の位置づけ

本調査は、インフィニティメディカルソフト株式会社（以下、当社）が日本で20年以上培ってきた PACS（医用画像管理システム）及び医用画像管理技術をコアにした関連パッケージ製品と、近年フィリピンで開発した医療連携型のクラウド型 PACS サービスを、新興国市場であり今後の成長が期待できる同国において、医療アクセスの改善や医療レベル向上に活用するための前段階として、現地の医療機関や政府関係者からのニーズ確認を実施するものである。

特に、島嶼エリアが多く地域格差が顕著な同国において、クラウド型 PACS を活用し、現地の医療ニーズに適した医療連携モデルを構築することで、当社の主力製品であり医療連携に不可欠なデジタル基盤である PACS 販売を含めた事業化に向け、課題の抽出や戦略立案を行うことを目的としている。

また、将来的にフィリピンと医療水準や PACS 普及状況が同程度の ASEAN 諸国を中心とした第三国への本格的な展開に向けて、ビジネスモデルを構築するための検討フェーズとして位置づけている。

2. 市場環境

2.1. 市場規模・推移

フィリピン全体では、病院数は1,300施設程度とされており（1,200～1,500との推計もある）、人口1,000人あたりの病床数は約0.9床前後と各種統計で報告されている（*1）。これは日本の約12.5床～13床と比較して著しく少なく、他の新興国と比べても低水準である。そのため、フィリピン政府は医療提供体制の強化を目的として、新病院の建設および既存施設の増床を推進している。実際、現地調査においても、多くの医療施設で新棟や分院の建設が進められていることが確認された。

また、高度医療を担う民間病院では、強い資本力を背景に買収や新設によるグループ化を推進し、高度医療への対応・ITシステムを含む運用の高度化・患者サービスの向上などを進めている。

*1 フィリピンの病院数は Department of Health (DOH) による National Health Facility Registry の公開データを参考にした概数。

人口1,000人あたりの病床数は World Bank「World Development Indicators (Hospital beds per 1,000 people)」の統計値を基に記載。

2.2. 医療機関の状況

フィリピンでは人口増加と都市部への人口集中が進む中、地方部では医療人材および高度医療設備の不足が慢性化している。特に放射線科医や専門医の偏在は深刻であり、画像診断分野においては診断の遅延や質のばらつきが課題となっている。

医療 IT 分野においては、政府主導の医療デジタル化政策や民間病院グループによる IT 投資の拡大を背景に、PACS や医療情報システムへの需要は中長期的に拡大傾向にある。一方で、高額なオンプレミス型システムの導入・維持は、多くの公立病院や地方医療機関にとって大きな負担となっている。

<フィリピンでの病院の機能分類について>

フィリピンでは、病院は主に Level 1 ～ Level 3 に分類される。この分類は、政府（DOH）が定めている医療サービス能力（service capability）に基づくものである。

以下に、その分類毎の説明と施設状況について記述する。

区分	主な医療機能	主な設備・診療内容	典型的な規模	概算施設数 (全国)
Level 1	基本的な医療サービスを提供する一次医療病院	・一般外来診療（内科、一般診療） ・入院管理（一般病床） ・救急初期対応 ・基本臨床検査（血液、尿検査など） ・基本放射線検査（一般 X 線） ・軽度外科処置	約 25 ～ 100 床	約 700 ～ 800 施設
Level 2	外科・分娩などの専門医療を提供する二次医療病院	・一般外科手術 ・産科（分娩） ・小児科診療 ・集中治療（ICU） ・画像診断（CT、超音波など） ・高度臨床検査（生化学検査、血液検査など）	約 100 ～ 300 床	約 250 ～ 300 施設
Level 3	高度専門医療を提供する三次医療病院 (Tertiary hospital)	・高度外科手術（心臓外科、脳神経外科など） ・専門診療科（循環器、腫瘍、神経など） ・集中治療（ICU・NICU） ・高度画像診断（MRI、CT、血管造影） ・専門検査（病理診断、専門ラボなど）	約 300 床以上	約 80 ～ 120 施設

2.3.医療情報システムパッケージの動向

HIS（病院情報システム）は、民間病院・公立病院ともに導入が進んでおり、フィリピンの医療 IT 企業である BizBox 社が多くのシェアを獲得している。政府系病院（DOH 直轄病院）では政府独自の HIS が稼働し、導入が進んでいる。

＜参考資料：フィリピン主要 HIS メーカー＞

企業名	ビジネス規模	概要	導入状況
Bizbox Inc.	同社はフィリピン全土で 3000 以上のアクティブなクライアントを抱えている。	eClaims 申請システムについては、PhilHealth 認定の医療情報テクノロジー・プロバイダ（HITP）。	St. Joseph General Hospital, The Black Nazarene Hospital, Inc., Zamboanga City Medical Center
Comlogik Business Systems Inc.	200 以上の提携病院やクリニックがある。	HIMS、CIMS、Claims Assure、Comlogik EMR など、幅広い医療関連ソリューションを提供している。	MMG Sorsogon、MMG Palawan、Metro Rizal Doctors、MMG Tagum
Exist Software Labs, Inc.	世界中の 150 を超えるクライアントとパートナーにソリューションを提供している。	MERX 病院情報システムの機能には、医療記録、在庫モジュール、外来患者管理などが含まれる。	中国総合病院、イロイロ医師病院
CNR Software Systems	フィリピン全土の様々な病院や診療所にサービスを提供している。	Appoluz HIS は保健省の認定を受けている。主な特徴は、患者サービスと看護サービス。	
Sancy Solutions Philippines Inc.	200 以上の病院をサポートしている。	HIS には、14 のコアモジュール（患者、医師、放射線管理など）と 14 の補助モジュールが含まれている。	大規模病院（2,000 床）が利用
HashMicro	病院や診療所をサポートしている。	機能には、資産管理の最適化、アポイントメントのスケジューリング、在庫管理などがある。	
IQVIA	このソリューションは 2,000 以上のサイトに導入されており、世界中で 100 万人以上のユーザーベースがある。	クラウドベースの統合病院情報システムおよび電子カルテソリューション。	
Segworks Technologies	7 病院（三次および二次）で HIS を実施。	さまざまなサービス部門向けの統合モジュールを提供している。	

※実際のフィリピン国内の導入実績情報は正確に確認できず、上記の導入情報は各企業が発信する情報に基づく内容である。

2.4. クラウド型 PACS ・ 医療連携サービスの動向

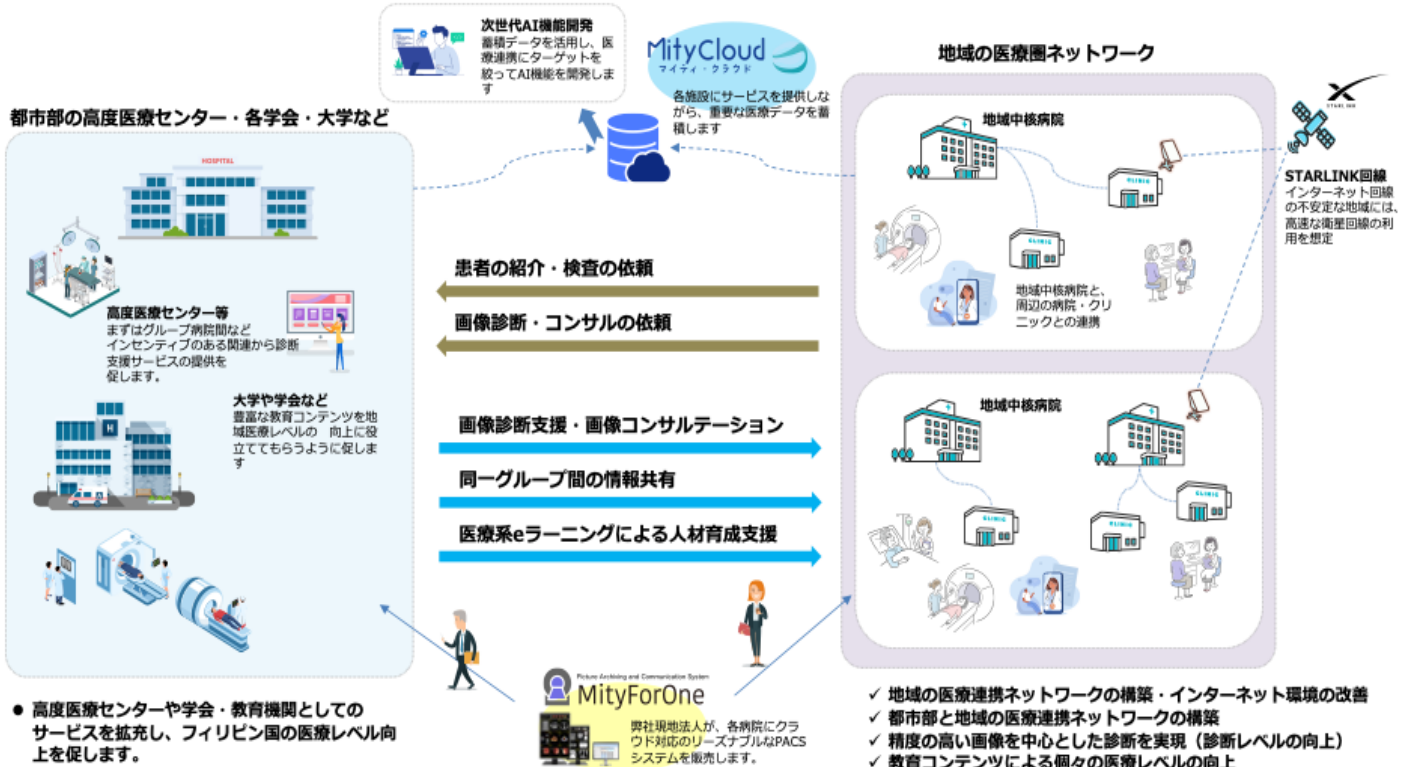
当社が提案する医療連携を目的としたクラウド型 PACS サービスについては、現時点でフィリピン国内市場を主要ターゲットとして積極的に営業活動を行っているベンダーは確認されていない。一方で、Philips、RamSoft、Ambra、Dedalus などの海外 PACS ベンダーは、ワールドワイドでクラウド型 PACS サービスを提供しており、フィリピンの医療機関においても技術的には利用可能な環境にあると考えられる。ただし、本調査の範囲においては、これらのサービスがフィリピン国内で実際に運用されている事例は確認できなかった。

現地の医療施設からは、クラウド型 PACS サービスへのバックアップ機能のニーズが多く聞かれた。これは、現地医療施設で導入している PACS の多くは日本のようなシステムの冗長性を確保していないケースが多く、システムトラブルが原因で運用が停止したり、データ二重化などの保全性が不足してシステム障害時にデータロスが発生したりするケースが多いためとのことであった。

また、DOH より発行される LTO (License to Operate: 病院運営に対するライセンス) の取得や、Data Privacy Act (個人情報保護に準ずる法律) の要件にもデータ保全を厳しく定める項目があり、自然災害の多いフィリピンでは「オンプレミス型システム+クラウドバックアップ」への関心や期待が高い要因であると判断している。

＜本調査で提案した医療連携サービス概念図＞

弊社の医療アクセス改善のネットワークイメージ



医療連携サービスとしては、フィリピンでは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック以降、EMR システム（電子カルテシステム）にオンライン診療等の患者向け医療連携機能が搭載され、普及・定着している。

一方で、現在のフィリピンにおける画像診断分野の医療施設間連携の実態を見ると、高度な画像診断能力を有する施設が、画像診断装置または画像診断能力を持たない施設に対して遠隔で診断をサポートするケース（遠隔画像診断連携）と、画像診断装置または画像診断能力を持たない施設が、それらを有する施設に患者を紹介するケース（患者紹介／検査紹介）が日常的に発生している。しかし、いずれの場合でも検査画像の共有に関して施設間でのアナログなやり取りが残存している。具体的な方法としては、CD-ROM や USB 等の外部メディアに画像を保存して各施設まで郵送または直接の持参、もしくは Google Drive による画像ファイルの共有や E-mail による転送を行なっている。したがって、セキュリティ面や運用面において課題が多く、それらに対応したクラウド型 PACS サービスは、今後の発展が期待できると考えている。

2.5. 競合動向（PACS）（一部非公開）

PACS は、医療機器メーカー系では日本の A 社、ドイツの B 社などが積極的に大手医療機関を中心に導入を進めており、現地法人や代理店を整備し医療機器と合わせて大手医療機関を中心に積極的に PACS 販売を推進している。これは、フィリピンに限らず日本でも同様である。

これら医療機器メーカー製の PACS 製品は、一般的に臨床的な機能が豊富である Level 3 の高度医療病院にはニーズが強い。一方で、システム費用が高額な場合が多く、当社が PoC（実証実験）を実施している民間の病院施設では、高額な保守費用のために低コストで維持できる他社製品への変更を希望されるといった事例があった。

中堅の PACS 専門ベンダーについては、米国の C 社が近年積極的にマニラ周辺で営業活動を行い、近隣の州（パンパンガ州、カビテ州、バタングス州等）で導入済み施設を複数確認することができた。

その他、台湾の D 社や韓国の E 社など、医療機器（特に CT や MRI）の付属品という形態で病院に導入するという手法をとるメーカーも多く、実際に稼働している PACS にはこの手法で初期導入されたものもいくつか確認できた。

病院で運用されている PACS の全体機能として、一般的な医用画像管理とその画像参照機能のほか、HIS との連携や放射線部門運用をカバーする RIS（放射線科情報システム）機能の性能が重要であることがわかった。当社として、RIS 機能については現地向けに再開発し、競争力を強化する必要性を認識した。

その他、放射線科以外（循環器領域や内視鏡領域など）の診療科に

特化した専門性の高い画像システムは、フィリピンではまだ一般的に導入が進んでいない状況であり、他社と差別化した当社の販売戦略として有効な手段と考えている。

以上は、予算確保が可能な Level 3 病院の状況だが、Level 1~2 規模の病院やさらに地方部の病院では、未だデジタル化されていないフィルム運用の施設が数多く存在している状況である。

<参考資料：フィリピン主要 PACS メーカー一覧>

企業名	PACS 製品	製品概要
Fujifilm	Synapse PACS	大量の画像情報をアーカイブおよび配信するように設計された Web ベースのソリューション。
AGFA HealthCare	Enterprise Imaging	さまざまな部門間のコラボレーションをサポートする、高度な画像処理およびレポート作成ソリューション。
INFINITT	INFINITT PACS	INFINITT PACS7.0 は、すべての DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) ベースの画像処理を処理する放射線医学用のインテリジェントなアーカイブが可能。
Sectra (has a distribution agreement with Medical One in the Philippines)	Sectra PACS (Radiology Module For Enterprise Imaging)	インテリジェントな表示プロトコル、3D レンダリング、臨床アプリケーション、埋め込み型音声認識などのツールを提供し、研究のレビューやレポートの文書化に利用できる。
Novarad	NovaPACS	エンタープライズイメージングを内蔵した高度な PACS システムで、放射線科、心臓科、病理学、マンモグラフィーなどの医療施設を支援する。
Lifetrack Medical Systems	Lifetrack PACS	インターフェイスから直接設定できるカスタムワークフローにより、効率と放射線治療のターンアラウンドタイムを改善できる。
Rasmsoft	PowerServer	Web ベースの RIS/PACS システムで、カスタマイズ可能なワークフロー、統合ワークリスト、および安全なイメージ共有を提供する。
AdvaPACS	AdvaPACS	Web ベースのシステムであり、ドキュメントの保存、比較ビュー、ワークフロー管理が可能。
Medequal	Edison True PACS	AI ベースの意思決定支援アプリケーションをサポートし、インテリジェントなワークフロー自動化を組み込んだ GE Healthcare の PACS ソリューションを提供する。
Allengers	PACS solution	それは全ての DICOM モダリティ (CR、CT、MRI、Cath-Lab など) をサポートする。
EBM Technologies Inc.	SoliPACS	病院全体の医療画像を管理するエンタープライズ PACS。CT・MRI・超音波など多様なモダリティ画像を DICOM 形式で保存・管理し、HIS/RIS と連携して画像閲覧・共有を可能にする。

※製品情報については、各企業が発信する情報に基づく一般的な情報である。

3. ターゲット顧客・ニーズ

3.1. 訪問実績

本調査で合計 33 施設に対してヒアリングを実施した。

訪問施設数	Hospital（病院）：26 件 Clinic（クリニック）：1 件 Laboratory（検査機関）：0 件 Others（その他）：6 件	その他は、保健事務所（政府） や医療系企業
-------	---	--------------------------

訪問施設のうち、医療機関（病院 26 件＋クリニック 1 件）に関する情報は以下の通り。

地域別	Luzon（ルソン）：16 件 Mindanao（ミンダナオ）：6 件 Visayas（ビサヤ）：5 件
州別	ルソン（マニラ首都圏） ・ Metro Manila（マニラ首都圏）：6 件 ルソン（マニラ周辺地域） ・ Cavite（カビテ）：4 件 ・ Pampanga（パンパンガ）：3 件 ・ Quezon（ケソン）：2 件 ・ Batangas（バタンガス）：1 件 ミンダナオ ・ Davao del Norte（北ダバオ）：2 件 ・ Davao del Sur（南ダバオ）：4 件 ビサヤ ・ Cebu（セブ）：5 件
地域特性	都市部：17 件 郊外：10 件 農村部：0 件
床数	1,000 床以上：4 件 500～999 床：4 件 300～499 床：5 件 200～299 床：3 件 100～199 床：9 件 1～99 床：1 件 0 床（クリニック）：1 件
施設 Level	Level 3：19 件 Level 2：6 件 Infirmary/Dispensary（一次医療施設）：1 件 記載なし（クリニック）：1 件
運営主体	Private（民間）：12 件 DOH / DOH Retained / DOH Specialty（保健省管轄）：10 件 LGU / LGU Provincial（地方自治体）：4 件 Public – National University Hospital（国立大学病院）：1 件

上記集計結果の通り、ルソン地域以外の訪問エリアとして、ビサヤ

地域・ミンダナオ地域では高度医療病院が集中するセブ市・ダバオ市周辺の施設を訪問した。

民間・公立病院をそれぞれ訪問し、DOH が管轄する施設の他、地方自治体（州や市など）が管轄する LGU 病院にも訪問した。

今回の調査では、フィリピン全土のエリア（ルソン地域・ビサヤ地域・ミンダナオ地域）に対して広範囲に訪問することができた。都市部（メトロマニラ・セブ市・ダバオ市）以外の周辺の地域の医療機関も訪問できたが、さらに遠方の農村部や小さな島嶼エリアなどは本調査期間ではスケジュールに組込むことが出来ず、訪問できなかった。そのためヒアリング情報は限られているが、患者・検査紹介の受け入れを実施している Level 2～3 の水準にあたる高度医療大規模病院を多く訪問した。

3.2. 訪問施設のシステム導入状況について（一部非公開）

まず、本調査における訪問先の選定にあたっては、調査スケジュール上の制約も踏まえつつ、まずは実際に PACS や HIS 等の医療情報システムが導入・運用されている医療機関を中心に訪問を行った。これは、既存システムの運用状況や課題、医療機関間の情報共有の実態、ならびにクラウド型 PACS や医療連携サービス導入の可能性を具体的に把握することを目的としたものである。

特に都市部の医療機関では、既に一定の IT インフラが整備されていることから、医療情報連携や遠隔医療の実装に関する具体的な課題やニーズを詳細に把握することが可能であり、今後のシステム実装モデルや医療連携の運用形態を検討する上で重要な情報を得ることができると考えた。

一方で、本事業の目的である農村部や島嶼部における医療アクセスの改善という観点からは、都市部の医療機関をハブとして周辺地域の医療機関と連携する医療ネットワークの構築が重要である。そのため、本調査ではまず都市部の基幹的な医療機関の現状把握を優先し、将来的な医療連携モデルの検討に資する情報収集を行った。

以下に、ヒアリングを実施した訪問先医療機関におけるシステム導入状況について記述する。

HIS	導入済：17 件 未導入：2 件 不明：8 件	＜導入済み内訳＞ ヒアリング内容より概略としては、DOH 系は iHOMIS などの DOH 標準 HIS、その他全体的に BizBox 社製の HIS が多く、自施設で開発した In House のものも複数存在する。
PACS/RIS	導入済：21 件 未導入：3 件 不明：3 件	＜導入済み内訳＞ 非公開

3.3. ターゲット顧客

PACS 販売のターゲット顧客について以下に記述する。

<病院種別毎のターゲット>

当社のようなメーカーにとって PACS の主要なターゲットとなり得るのは、営業活動における進展が比較的早く、予算の見込みが立ちやすい Level 2 以上の民間病院だと考えている。

DOH（国立系）・LGU（州立／市立系）の公立病院については、本調査でヒアリングを実施した施設においても、予算確保が出来ずに PACS 未導入の施設も多く存在していた。そのため、中長期的な視点では PACS のターゲット顧客となり得るが、まずは当社が推進する、画像診断に関連する医療連携サービスも含めた提案やパイロット導入による検証結果を通じて、その有効性の認知と予算確保に繋げる営業活動を継続することが必要になると考えている。

以下に、公立病院・民間病院毎の医療 IT システム導入の違いについて示す。

観点	公立病院	民間病院
予算・調達の年間スケジュール	・ 政府の年度単位予算（General Appropriations Act）に基づく。 ・ 予算要求は通常、前年の中頃（6～9 月頃）に提出。 ・ 予算確定後、政府の厳格なルールに基づいて入札を実施し選定。 ・ 調達など政府制度に依存するケースが多く、調達開始から契約まで 6～12 ヶ月程度のケースが多い。 ・ 年度内消化が原則。	・ 病院経営陣の投資計画により決定。 ・ 設備更新や IT 投資は 随時実施可能。 ・ 入札は必須ではなく、ベンダー直接選定（Direct Procurement）が一般的。 ・ 導入決定から契約まで 1～3 ヶ月程度のケースが多い。
意思決定プロセス	・ 病院長または行政機関が最終決定。 ・ 通常は以下の関係者が関与： － 医療部門（Department Head） － 病院 IT 担当 － DOH または LGU 管理部門 － Procurement Committee ・ DOH や LGU の政策との整合性が必要。 ・ 行政手続きが多く、意思決定は比較的遅い。	・ 病院経営層（Owner / CEO / Medical Director）が主導。 ・ 意思決定には以下が関与： － 医師（特に放射線科などの部門長） － IT 部門 － 経営管理部門 ・ 実運用の利便性を重視して比較的迅速に決定される。

保守体制の ニーズ	・ 院内 IT 人材が不足しているケースが多い。 ・ ベンダーによる包括的保守契約やリモートサポートなどのニーズが強い。 ・ 安定運用を重視し、長期サポート契約を要求される場合が多い。	・ 比較的 IT スタッフが存在するケースが多い。 ・ ソフトウェアのみといった部分的な保守契約や、システム更新・機能追加への柔軟な対応（カスタマイズ）などのニーズが強い。 ・ システム性能やユーザビリティへの要求が高い。
--------------	--	---

＜地域別のターゲット＞

PACS 販売を推進するためには、当社規模の企業でフィリピン全土の営業活動を継続することは困難である。したがって、医療機器代理店や HIS メーカーとのパートナーシップが重要となる。ただし、各種代理店との販売代理契約の締結やスタッフのトレーニング、当社自身のサポート体制の増強にも相応の期間が必要であり、1 年程度はマニラ周辺、ダバオ市及びその周辺地域など、直接営業が可能なエリアをターゲットとする。

中でも、本調査で訪問したルソン島のパンパンガ州、バターン州、カビテ州、バタンガス州、ケソン州や、ミンダナオ島のダバオ地域、ビサヤ地域のセブ市周辺など地域の主要施設や医療機関のニーズをある程度把握し、施設との人脈構築も進められたエリアを初期のターゲット地域として考えている。

3.4. ターゲット顧客のニーズ（顧客の直面している問題）（一部非公開）

今回訪問した民間病院グループに属する施設については、現時点では一般的な PACS 機能を利用しているが、今後は高度医療を推進するための各種診療科別のアプリケーションニーズが旺盛と感じている。

また、そのような施設にシステム導入するには、既存の HIS システムと HL7（Health Level Seven：医療情報システム間でデータをやり取りするための国際標準規格）などの標準的な医療情報連携規格を用いて、電子カルテ（EMR）や各種医療機器、他の医療情報システムと円滑に接続し、データを共有できるシステム統合（インテグレーション）能力が必要である。

公立病院の中でも、特に地方に所在する LGU 病院（州立・市立病院等）は、政府主導の「No Balance Billing 制度」のもと、PhilHealth（フィリピン健康保険公社）が提供する国民皆保険制度を活用し、原則として医療費を患者に請求しない形で運営されている。また、UHC 法（Universal Health Care Act）の理念に基づき、これらの医療機関には患者を原則として受け入れる医療提供義務が課されている。その結果、患者が集中し、

医療現場では多忙な業務を強いられている状況にある。

<No Balance Billing 制度について>

No Balance Billing (NBB) とは、患者が退院時に追加の自己負担を支払わない制度である。本制度は、PhilHealth 保険（日本での国民皆保険のように誰でも参加できる健康保険）を利用した上で、自己負担を 0 にすることを目指している。

「患者の病院請求額 - PhilHealth 保険支払額 = 0」

<対象病院>

対象病院は、以下の公立病院。

- ・ DOH Retained Hospitals（ほぼ全てが NBB の対象）
- ・ National Government Hospitals（全てが NBB 対象）
- ・ LGU 病院（一部が NBB 対象で、対象範囲は拡大中）

※今回訪問した多くの公立病院が対象病院となっている。

（出典：PhilHealth Circular No. 2017-0003「No Balance Billing Policy の実施」、Republic Act No. 11223 (Universal Health Care Act)、PhilHealth 公式資料「No Balance Billing Policy」、Department of Health (DOH) 医療施設分類資料）

多くの公立病院において、必要な予算確保が依然として難しく、医療機器が著しく不足し医療情報システムなどの業務効率に寄与する設備投資も進まない。これにより、検査が 2~3 ヶ月待ちになったり、必要な医療機材が不足したりして診療が滞ることもある。

実際に、訪問したカビテ州の市立病院では周辺病院から多くの紹介患者の受入れを行なっているが、2012 年より設備に対する予算の承認が全く下りず、PACS はもとより HIS も導入されておらず、ペーパーによる非効率な運用を強いられていた。

以下に、PACS 導入済み施設への調査における、利用中システムに対する主なコメントを記載する。

- HISは導入されているものの、RIS（放射線情報システム）が未導入であったり、HISと連動していなかったりするため、マニュアルでの運用が多く残り、高度な運用ができていない。（放射線科 管理者）
- インターネット接続の不安定さが HIS や EMR（電子カルテ）運用の懸念事項として挙げられる。（IT 部門 管理者）
- 既存の PACS の動作が非常に遅く、X 線画像の表示に 10 秒以上かかるなど「現実的に使えない」状況であり、現場レベルで早急なリプレイス（更新）が必要である。（放射線科 管理者）
- 以前利用していた PACS（Synapse）のシステムが安定せず、サポート体制も良くなかったという理由で他社製に変更した。（放射線科 管理者）
- 既存の PACS と超音波装置などが別のシステムになっており、統合できていないことが課題として改善を求められている。（医師）
- DICOM 非対応機器（Non-DICOM）との連携に課題がある。（医師）
- 外部医師や他院との画像共有に、非暗号化のメールや Google Drive、Messenger などを使用しており、手動で非効率かつセキュリティ上の懸念がある。（放射線科 管理者）
- 放射線科の PACS は導入済みでも、内視鏡や超音波エコーなどの画像はデジタル化されておらず、USB や紙（Word のテンプレートなど）でマニュアル管理されている施設が多く、これらの部門システム（ESPK/USPK など）が期待できる。（内視鏡検査部 管理者）
- 既存のオンプレミス PACS を持つ病院でも、画像データのバックアップ目的としてクラウド PACS（MityCloud など）の活用に関心を示している。（放射線科 管理者）

各病院視察時の印象や上記のコメント内容より、HIS・RISを導入したものの「MRI等の医療機器に付属したPACS」や、純粋な予算不足により病院全体のシステムの統合化（インテグレーション）が中途半端で、本来のIT化による効率化が達成できていない施設も多く、低コストで接続性の良いものが求められる傾向にある。

また、今回訪問した先進的な医療施設では、放射線科向けのPACSのみならず、循環器・産婦人科・がん・脳神経などに特化した日本と同水準の専門性の高い医療パッケージにもニーズがあると感じた。

4. 製品・サービス概要

4.1.PACS（オンプレミスパッケージ）（一部非公開）



高度なDX運用を目指す医療機関様向けのソリューション

インフィニティメディカルソフトが日本で提供中のHISと連動する検査系パッケージソリューションです。
※既に、マニラの高度医療を提供する民間病院様での利用が始まっています。

超音波ファイリングシステム MityForReport USPK

「Mity for Report USPK」は、医療機関の多くの領域で実施される超音波検査の画像ファイリングからレポート作成を含む一連の検査業務に対応する「画像ファイリング・検査部門システム」です。



統合PACSシステム MityForOne

「Mity for One」は、マルチモダリティ医用画像ファイリングシステムです。小規模構成から、専門性の高いUSPK/ESPKと組み合わせた高度医療施設まで幅広く対応可能です。



内視鏡ファイリングシステム MityForReport ESPK

「Mity for Report ESPK」は、内視鏡での「受付～検査～レポート」までの一連の検査業務管理機能の他、静止画・動画のDICOM-Gateway機能・動画録画機能・病理システムとの連携等に対応するシステムです。



▶ 特徴：エコー動画／計測機能・DICOM-Gateway・通過管理など最新の健診機能に対応

<PACS（製品名：MityForOne）>

MityForOne は、病院やクリニックで発生する医用画像（X-Ray や CT・超音波診断装置などから出力される検査画像）をデジタル形式でサーバー装置に収集して一元管理することで、検査や画像診断業務の効率化・精度向上を目的とする医用画像管理システムである。

本製品の市場展開は、Level 2 以下の病院のうち、まず画像管理から始める施設には現行仕様のままで提供が可能である。一方、HIS を導入済みでシステム間の連携を推進する施設には、以下に示す RIS 機能の競争力向上を進めて展開する必要がある。

RIS 機能の競争力向上の主なポイントとしては、現在のメイン画面に相当する検査オーダーのリスト画面がスタンドアロン（一般的な Windows アプリケーション）で開発されているが、他社製品が保守の作業効率の高い WEB ベースであり、当社も WEB 化する必要がある。

<内視鏡・エコー部門システム（製品名：MityForReport USPK/ESPK）>

MityForReport USPK/ESPK は、MityForOne の画像管理機能に加えて、超音波診断装置を利用する循環器部門や内視鏡検査部門向けに必要な「動画管理・各種計測機能・DICOM ゲートウェイ機能¹・多機能レポート機能」などを追加した部門特化型のパッケージシステムである。

¹ ビデオ信号や汎用画像ファイルを医療用の DICOM 形式に自動変換する機能

当初、本製品についてはフィリピン向けには資料ベースで紹介する程度を想定しており、製品の英語化も完全でなかった。しかし、本調査中に訪問した1施設において導入の意向があり、内視鏡部門で採用されることとなったため、急ぎ同施設と製品仕様の意見交換を進め、必要なローカライズを整えた上で導入した。

同施設はフィリピンでも屈指の大規模な高度医療提供施設で、フィリピン全土より医師が研修に訪れる教育機能も持っている。本施設では、「患者への高度医療サービスの提供・業務効率や医師の利便性・スタッフへの教育機能」に重点が置かれており、当社の高度な内視鏡検査に特化した画像管理機能やレポート機能・動画再生機能が強く評価され、採用に至った。本施設のように、内視鏡検査や循環器系の高度医療を提供する施設には、本パッケージについても十分ニーズがあると考えられる。

4.2. クラウド型 PACS サービス（クラウドサービス）

医療連携型 クラウドPACSサービス

MityCloudは、自宅や出張先からの画像参照・地域の画像カンファレンス・遠隔による画像コンサル・グループ病院の一元管理などのクラウドPACS機能に加えて、eラーニングや医療チャットなどクラウドならではの医療連携機能がご利用可能です。

最新のDICOM Web技術を採用
実績豊富なOpenSourceプロジェクトのDICOMモジュールを採用し、最新のDICOM Web技術規格を採用しています。
大容量のDICOM画像を高速にWebブラウザ上で閲覧可能です。

クラウドならではの医療連携機能
クラウド上の医療機関をグループ設定することで、スタッフ間でセキュアにチャット連携が可能。また対象の検査画像を共有して「遠隔画像診断」や「医療カンファレンス」が簡単に利用できます。

eラーニング機能
弊社で実績豊富なeラーニング機能も実装しています。「スタッフ教育」「学会などのコンテンツ配信」などの教育目的で利用可能です。

高機能・高レスポンスのWEB画像ビューワ

AI応用に適するPythonで開発
本サービスのソフトウェアは、将来的なAI機能の実装を見据えて世界的にAI開発で利用されているPython（言語）で開発されています。

全てWEB上で動作し、タブレット・スマートフォンにも対応！

特徴：クラウドサービス・最新のDICOM Web技術・医療連携・遠隔画像診断・eラーニング

<クラウド PACS（サービス名：MityCloud）>

本サービスは、クラウド技術を活用した医用画像管理（PACS）および医療連携サービスである。医療機関内で撮影された医用画像を安全にクラウド環境へ保存・共有することで、遠隔地の専門医による読影支援

や、医療機関間の迅速な画像連携を可能とする。

また、オンプレミス環境とクラウド環境を組み合わせたハイブリッド構成とすることで、ネットワーク障害時においても院内での診療業務を継続できる柔軟な運用を実現する点を特徴とする。さらに本サービスには、医療従事者間のコミュニケーションを支援するチャット機能や、教育・研修を支援するeラーニング機能を搭載しており、これらを活用することで、フィリピンにおける地域医療連携モデルの構築を支援することを目指している。

当社は、クラウド型 PACS サービスの普及に対して、個別医療機関への導入に加え、地方自治体（LGU）が管轄する公立病院ネットワークや、保健省（DOH）が推進する医療情報化および遠隔医療関連施策との連携を視野に入れている。具体的には、DOH による医療施設整備プログラム（Health Facility Development Program）や、Universal Health Care（UHC）政策に基づく地域医療ネットワーク整備、また LGU が主体となる州・都市レベルの医療機関間連携プロジェクト等が想定される。これらの事業では、地域内の複数医療機関間で医療情報を共有し、診療連携や専門医による遠隔支援体制を構築することが重要な政策課題となっている。

またこれらの事業における医療情報システムの導入は、一般的に政府または地方自治体の予算に基づき実施され、調達法（New Government Procurement Act : Republic Act No.12009）に基づく入札手続きにより行われる。一般的には、地方自治体または保健省において前年中頃に予算計画が策定され、翌年度に調達およびシステム導入が実施されるスケジュールとなることが多い。本サービスについても、こうした公的医療事業への参画を中期的な展開として視野に入れ、LGU や DOH の保健部門との協力関係の構築を進めることで、地域医療の質の向上および患者サービスの改善に貢献することを目指している。

＜当社が推奨する医療連携の段階的な機能拡張＞

医療連携の機能性

まずは、ネットワークに参加する医療関係者が自由に利用できるインフラを構築し、段階的に高度化できます！

フェーズ1：遠隔画像診断と運用が容易な「画像共有／ファイル共有／eラーニング」で連携評価
 フェーズ2：フェーズ1の実績に基づき、課金なども含めて具体的な医療連携のワークフローの実装
 フェーズ3：さらなる広域化・患者サービスへの拡張などの将来構想を実現

機能		概要	効果
遠隔画像診断ワークフロー		医療連携内で、自由に遠隔で画像診断に対応できるオンラインラボを開設できます。	本来、高額な設備が必要な遠隔画像診断を、自由に開設できることで、小児・脳外科・循環器などに分類して依頼可能施設も指定可能です。
画像共有・ファイル共有		検査ラボ運用・臨床研究グループなど、複数施設で共同の目的がある場合に、施設グループ単位で画像やファイルの共有管理が可能です。	医療情報の共同利用が可能なグループでは、症例検討・臨床研究・検査機器やLABO業務の共同運用など、画像共有などの一元管理のニーズに対応します。
Eラーニング		臨床から病院業務・インシデント対策まで広域でスタッフ学習すべき学習コンテンツのオンライン利用	スタッフ教育・臨床知識・医療事務など、能動的な学習環境の構築により、病院のスタッフレベルの向上に役立ち、教育状況を管理者が把握可能になります。
チャット・TVカンファレンス		1対1、1対Nに対応した、チャットコミュニケーション機能やTV会議機能を利用できます。	医療情報をクラウドのセキュリティの範囲で安心してコミュニケーションに活用可能です。 (TV会議機能は 2026年末頃予定)

以下に、本調査を通じて得られた、クラウド PACS サービス (MityCloud) に関する主なコメントを記す。

好意的なコメント	・ 画像診断医が自身で運営する 8 つのクリニックで遠隔から画像を参照できず、診断のために現地に出向く苦勞を抱えており、MityCloud の遠隔診断機能に強い関心を示している。(民間病院 放射線科 管理者) ・ 病院と 3 つのサテライトクリニックを VPN 接続で運用しており、MityCloud の遠隔診断機能に興味を示している。(民間病院 IT 管理者) ・ 「救急車内の超音波装置の画像を院内の医師が参照できるようにしたい」という要望があり、MityCloud がその解決策になると考えている。(公立病院 医師) ・ 外部との画像連携を Google Drive や Messenger 等で手動(非暗号化)で行っている課題があり、MityCloud をその解決策として考えている。 (公立病院 放射線科 管理者) ・ 既存のオンプレミス PACS を導入済みの複数の施設において、安価な初期費用で導入できるクラウドのバックアップ先として MityCloud が評価されている。 (公立病院・民間病院)
----------	--

課題	• 既存の PACS にはある「特定の疾患に応じて保存画像を検索できる機能」が、現在の MityCloud には提供されていないと指摘されている。(公立病院 放射線科 医師) • グループ病院ごとに異なるシステムが入っているため、接続性に関する懸念が示された。また、他社製品と比べて価格競争力がないとも指摘されている。(民間病院グループ 本部スタッフ) • 病院間連携の話題において「データプライバシーの観点から病院外に一切患者データを出すことはできない」という懸念が複数の施設より示された。 これに対し、日本での事例として個人情報情報を削除(匿名化)する運用などを紹介している。(民間病院 放射線科 管理者) • グループ病院でのクラウドサーバーを使用する際の「データセキュリティ」に対する懸念が挙げられ、グループ病院が管理する共有ネットワーク／共有データセンターでのインテグレーションについて確認が行われた。(民間病院グループ IT 部門 管理者)
----	---

遠隔画像診断や患者紹介等の地域医療連携における患者の個人情報を含む医療情報共有については、政府のデータセキュリティ担当者も参加した上で「パイロット運用」を実現し、日本での対策や運用を紹介しながら実現を目指すことが適切ではないかと考えており、中長期的な提案活動となることを想定している。

その点、「バックアップソリューション」としての MityCloud の提案については、予算が確保できれば比較的早く実現可能であり、将来的にバックアップ画像を活用した医療連携にも繋がることから、短期的な当社の提案活動としては有効と考えている。

5. フィージビリティ（技術／運営／規制等の実現可能性）

5.1. 技術・価格の現地適合性（一部非公開）

「2.5 競合動向（PACS）」で記述したように、単純な PACS は競合他社が既に多く存在しているため、機能面での差別化が求められるほか、フィリピンでの導入実績が重要なファクターとなる。

当社は、現地法人に開発体制が既に存在し、日本とフィリピンで開発協力体制も確立済みである。この開発体制を十分活用し、現地ニーズに即した柔軟なカスタマイズを行うことで、フィリピンの運用にマッチした機能性と充実した現地サポートによる差別化ができ、中期的な競争優位を確保できると考えている。

本事業で想定する PACS およびクラウド型 PACS サービスは、当社で双方を提供可能とすることで、下記に示すような顧客の規模・予算・ニーズに合わせた画像管理手法を提供できる商品構成を採用する。

ユーザー層	具体的なユーザー	機能性
(1) 単純な PACS による画像ファイリングユーザー	・ Level 2 以下の病院施設 ・ クリニック施設 ・ フィルムレス運用希望施設 <医療機器> ・ Ultrasound ・ X-ray ・ CT（小規模）	<画像管理> ・ 画像ファイリング ・ 画像閲覧 ・ レポート作成 ・ CD 作成
(2) DX 化を推進し、HIS 連携し検査業務の運用性の向上を求めるハイエンドユーザー	・ Level 2～3 で、DX 化推進施設 <医療機器> ・ Ultrasound ・ X-ray ・ CT ・ MRI ・ Endoscopy など	(1)に加えて ・ RIS 機能 ・ HIS 連携 ・ 産科・内視鏡・循環器などの専門性の対応
(3) 自施設の画像データの保全性の向上や、他施設との画像診断業務の連携を求める医療連携ユーザー	クラウド運用希望ユーザー ・ 遠隔画像診断のサービス提供施設 ・ 遠隔画像診断の依頼施設 ・ バックアップ運用施設 ・ 病院グループのヘッドオフィス	・ クラウド PACS 機能 ・ 遠隔画像診断機能 ・ クラウドストレージ ・ e ラーニング ・ コミュニケーション機能

<機能面の適合性>

本調査期間中に、1 施設の民間病院への内視鏡検査室向け部門システム（製品名：MityForReport ESPK）を 2025 年 9 月に受注し、2026 年 5 月に導入完了を実現した。

その際に、現地適用のためのカスタマイズ対応において想定外の対応をいくつか経験したため、以下に記述する。

ビデオカードの不具合	日本で利用している日本メーカー製の拡張カードが現地調達できないため、現地調達可能な拡張カードを利用して日本で検証後に導入するという一般的な手順を進めた。しかし、現地の PC 本体が病院指定に限られ、通常 DELL 社製を利用するところ、Lenovo 製を使うこととなった。現地での再検証を行ったところ、PC 本体のフリーズが多発し、解決に時間を要した。
ミドルネームの扱い	ミドルネームの対応が一部ソフトウェアで未対応のため、導入時に開発対象として作業したが、HIS からの通信電文の取り扱いなど HIS と当社システム双方で不一致が発生し、名前が表示されないなどの問題が発生した。
特殊文字	英語化すればフィリピンでは問題ないと考えていたが、フィリピンの公用語であるタガログ語にはスペイン語由来の要素が含まれているため、フィリピンでも使用される文字「ñ」に起因する誤動作が多発した。特に住所などでこの文字が多く使用されており、最後まで対応に追われた。 例) Dasmar iñas
内視鏡テンプレート対応	ICD-10 コード（世界標準の傷病名コード）への対応や、現地医師によるレポートのテンプレート（主には、所見の引用文字テンプレート）を、施設と共同で作成した。

上記は問題が発生した項目や主要な対応項目に限られるが、現地ローカライズ作業として数多くの対応と、約 90 日に渡って医師 80 名の他、内視鏡検査技師・IT ヘルプデスク・看護師・各マネージャー約 25 名に対して、「検査中の機器操作・レポート作成操作・管理者向け機能の操作・障害時のトラブルシューティング」などのトレーニングを実施した。

これにより、今後のフィリピンへの販売ソフトウェアの準備や施設導入のノウハウの蓄積が進んだと考えている。今後、他施設への現地販売を展開していくにあたり、極めて重要な基盤となるものであり、事業化に向けた重要なステップを着実に達成したと位置づけられる。

<通信環境に適応したシステム設計と接続技術>

特にクラウド型 PACS を提案する際には、地域によってはインターネット環境が十分でない場合がある。そのため、現地の通信状況に応じて安定した接続を確保するためのネットワーク設計および接続構成の最適化が重要となる。具体的には、院内ネットワーク構成の適正化、

インターネット接続構成の適正化、地域特性に応じた適切なインターネット通信事業者の選定、ならびに回線冗長化による通信の安定性確保などを総合的に設計することで、安定したシステム運用を実現する。

今後は、インターネット通信事業者や Starlink 社等の衛星通信サービス事業者と連携し、共同提案や技術的な相互サポートを進めることで、導入の信頼性を高めるとともに、現地 IT 人材の技術力の強化を図る。

なお、本調査期間中に Starlink 社の現地代理店の営業レベルでの意思疎通を進めたことや SI（システムインテグレーション）系販売代理店との代理販売契約の締結を 実現した事により、今後の協力関係の構築は実現できたものと考えて いる。

<価格面の適合性>

フィリピンの公立病院・地方医療機関では、高額な初期投資が導入の大きな障壁となっている。クラウド型 PACS サービスは元より、オンプレミス型の PACS 自体も、通常の一括払いによる費用体系の他に、初期費用を抑えたサブスクリプション型（利用量・規模に応じた月額課金）費用体系の有無について、今回のヒアリング中に病院担当者より確認される事が多々あり、現時点では双方の支払い方法に対応し限られた予算獲得時に病院毎のニーズに対応できる必要性があると考えている。

その他、初期の段階ではフィリピンでの実績が不足しており、パイロットプラン（病院施設で一定期間施行運用を無料で提供するプラン）を準備することで実績獲得を推進する。

5.2. 市場性

フィリピンでは人口増加および都市部への人口集中が進む一方、地方部では医療人材や高度医療設備の不足が慢性的な課題となっている。特に画像診断分野では、放射線科医や専門医の都市部への集中により、地方医療機関では診断の遅延や診断精度のばらつきが発生するなど、地域間の医療格差が顕在化している。このような状況において、医療機関間で医用画像を共有し、遠隔地の専門医が診断支援を行うことができる医療情報基盤の整備は、同国における医療アクセス改善の観点から重要な課題となっている。

また、フィリピンの多くの医療機関では、自院で高額な専用サーバー機器等のハードウェア環境を構築し、システムライセンスを一括購入する必要があるオンプレミス型システムの導入や維持が大きな負担となっている。これに対し、クラウド型医療 IT サービスは、自院でのサーバー等ハードウェア設備の初期投資が不要であり、利用規模に応じたサブスクリプション型（月額・年額課金）によるスモールスタートが可能であるため、初期費用を大幅に抑えて導入できること

から関心が高まっている。

本調査において訪問した医療機関からも、既存 PACS のバックアップ環境の整備や遠隔読影体制の構築に対するニーズが多く確認された。

(1) 市場規模（PACS 導入対象病院数）

Department of Health (DOH) の統計によると、フィリピンには全国で約 1,200～1,300 の病院が存在すると推計されている。これらの病院は医療サービス能力に応じて Level 1～Level 3 に分類される。

そのうち高度な医療サービスを提供する Level 2 および Level 3 の医療機関は、概ね約 350～430 施設程度と推計される。

本事業では、主に画像診断機器を保有するこれらの医療機関を PACS 導入の主要対象として想定しており、保守的な推計として 約 300～400 施設程度の病院が PACS 導入対象病院となると考えている。

近年は民間病院グループによる病院買収や新設も進んでおり、医療 IT システムの導入対象となる医療機関は今後さらに増加する可能性がある。このため、PACS および医療連携システムの市場は中長期的に拡大していくことが期待される。

(2) ターゲット顧客セグメント

本サービスの主要なターゲット顧客は、以下の医療機関である。

Level 3 病院 (高度医療機関)	心臓血管外科、集中治療室（ICU）、高度画像診断設（CT・MRI 等）を備える大規模病院であり、専門診療科が多数存在する。地域の中核医療機関として周辺医療機関からの紹介患者を受け入れる役割を担っている。そのため、地域医療機関との画像共有、遠隔読影、専門医によるコンサルテーションなど、医療機関間連携を支えるクラウド型 PACS へのニーズが高い。
Level 2 病院 (中規模病院)	一般診療および基本的な専門診療を提供する中規模病院であり、X 線装置や超音波装置を中心とした画像診断機器を保有している。CT 等の高度機器を導入している施設もあるが、専門医が常駐しないケースも多く、画像診断の専門的支援を外部に求めるニーズがある。そのため、上位医療機関との遠隔画像共有やクラウド型 PACS を利用した読影支援へのニーズが存在する。
民間病院グループ	フィリピンでは民間病院グループによる施設拡張が進んでおり、複数施設間で医療情報を共有するための医療 IT 基盤の整備ニーズが高まっている。

(3) 事業ポテンシャル（売上規模推計）

(1) で記載した当社が想定する PACS 導入対象病院数（約 300～400 施設）のうち当社シェアを中期的に約 10%とした場合、約 30～40 施設の医療機関で当社システム・サービスの売上が発生する。

また、並行して進める「クラウド型 PACS サービス」は、サブスクリプション型のビジネスモデルを想定しているため、通常の「パッケージシステムの保守収益モデル」と合わせて導入施設数の増加に伴った継続的な収益の拡大が期待できる。また、地方自治体（LGU）や保健省（DOH）が推進する地域医療ネットワーク構築事業において、今後 1～2 年程度の期間にわたり、パイロット運用から予算獲得までの営業活動を実施する予定である。

その結果、ルソン地域のケソン州およびビサヤ地域のセブ市を中核とした公立医療機関を対象とする 2 つの地域医療連携サービスが採用された場合には、参加医療機関における PACS システムの導入数がさらに拡大する可能性がある。

(4) 市場性の評価

当社のクラウド型 PACS サービス「MityCloud」は、医療画像のクラウド保存、遠隔読影支援、医療機関間の画像共有を実現することで、フィリピンにおける医療アクセス格差の改善に貢献するサービスである。また、オンプレミスとクラウドを組み合わせたハイブリッド構成により、通信環境が十分でない地域でも診療業務を継続できる柔軟な運用を実現している。

以上の点から、本サービスはフィリピンの医療課題および医療政策の方向性と整合性が高く、中長期的に十分な市場性を有すると考えられる。

(5) 競合優位性

フィリピン国内においては、医療情報システム（HIS）を提供する企業は複数存在するものの、その多くは電子カルテや病院業務管理システムを中心としたソリューションを提供しており、医用画像管理に特化した PACS、特に医療機関間の画像共有や遠隔読影を前提としたクラウド型 PACS を主力サービスとして提供している企業は限定的である。

また、海外ベンダーによるクラウド型 PACS サービスも存在するが、主に大規模医療機関向けの高価格帯製品であり、導入コスト、保守体制、通信環境への適応、現地医療機関の運用との整合性などの課題から、フィリピン国内で広く普及している事例は現時点では限定的である。

当社のクラウド型 PACS サービスは、日本で長年培ってきた PACS 開発技術を基盤としており、医療画像管理機能に加えて、遠隔読影支援や医療機関間の情報共有を支援する機能を統合的に提供できる点が特徴である。また、オンプレミス環境とクラウド環境を組み合わせたハイブリッド構成を採用することで、通信環境の地域差が存在するフィリピンにおいても導入しやすいシステム構成となっている。

さらに、クラウド型 PACS に加えて医療従事者間のコミュニケーション機能や教育支援機能などを組み合わせることで、単なる画像管理

システムにとどまらず、地域医療連携を支える医療情報基盤として活用できる点も当社サービスの強みである。

これらの特徴により、当社のクラウド型 PACS サービスはフィリピン市場において一定の競争優位性を有すると考えられる。

5.3. 法規制・その他障壁

(1) 法規制

フィリピンでは、個人情報保護法（Data Privacy Act of 2012（Republic Act No.10173））に基づき、医療データの適切な管理・セキュリティ対策が求められる。対応方法について本調査で確認済みであり、現在フィリピン現地法人での適用に向けて作業を進行中である。

<フィリピン Data Privacy Act of 2012（DPA）の概要>

目的・制度設計	フィリピンでは個人のプライバシーを基本的人権と認め、その保護と情報流通のバランスを目的として、この法律が制定された。
管理機関	国家プライバシー委員会（National Privacy Commission：NPC）が設立され、法律施行、ガイドライン提供、違反調査・是正命令などの権限を持つ。

（出典：Republic Act No. 10173, Data Privacy Act of 2012, Republic of the Philippines.）

当社では、日本での JIS Q 15001（個人情報保護マネジメントシステム要求事項を定めた日本産業規格）に準拠した P マーク（プライバシー マーク制度）の運用に準拠しており、そちらの実績を参考にすることで現地法人の対応を進めている。具体的には以下のような手順を進めている。

2026 年 6 月頃を想定して「6. NPC への登録・届出」を予定している。

1. 社内体制整備	法令担当責任者（DPO または Compliance Officer）を任命し、プライバシーポリシーを策定。従業員向け研修も実施。
2. データマッピング・リスク評価	取得する個人情報の種別・流れ・保管場所を可視化し、リスク評価を行う。
3. 利用規約・同意取得	個人情報の収集・共有・保存について明確に記載し、利用者からの“明示的な同意”を得る手続きを設ける。
4. セキュリティ対策の実装	アクセス制御、暗号化（保存・転送）、定期監査、ログ記録、インシデント対応体制などを整備。
5. 契約管理	委託先（プロセッサ）との契約に DPA 対応条項を盛り込み、「処理終了後のデータ処理・返却・削除」「監査権」「責任義務分担」等を明記。

6. NPC への登録・届出	NPC への届出実施。 ※申請から審査・登録まで 一般的に 2～3 週間程度。
7. データ主体の権利 対応窓口	アクセス請求や訂正、消去などの問い合わせを処理する手順 を明確化。
8. インシデント対応 と通知体制	データ漏えいが生じた場合、NPC および影響を受ける本人へ 速やかに通知できる体制を整備。
9. 定期監査・更新	プライバシー管理体制の有効性を定期的に監査・見直し、 ポリシーも更新し続ける。
10. 文書・証跡の保存	上記すべての取り組みを文書化し、必要に応じて NPC への 提示や法的証拠として残しておく。

また、日本での医薬品医療機器等法に該当する現地法規制として、FDA Philippines (Philippine Food and Drug Administration) が管轄する、Republic Act No. 9711 (FDA Act of 2009) がある。これは当社が販売する PACS システムにおいて、単なる画像管理や閲覧機能については一般的に対象外となるが、そこに含まれる「画像データを再構成して表示する機能や AI などの自動診断機能」など診断に直結する機能については、Software as a Medical Device (ソフトウェア医療機器) として許認可の対象となる。

フィリピンは ASEAN のメンバー国であり、ASEAN Medical Device Directive (AMDD) の枠組みによりシンガポールなどで取得した FDA でそのままフィリピンで販売すると想定していたが、厳密にはフィリピンで独自に FDA の許認可を受ける必要があるということが本調査で把握できた。

当社としては、FDA Philippines への面談を実施しており、当初 (2025 年 5 月頃) の FDA Philippines の担当者からの回答では、コンピュータソフトウェア単体を医療機器として許認可するといったノウハウが未整備の状態だったが、その後の専門家 (弁護士) などと相談を行い、正式に申請手続きに進められるように調整中である。2026 年中に少なくとも申請済みの状況に進めたいと考えている。

<FDA Philippines Software as a Medical Device (SaMD) 概要>

制度概要	Philippine Food and Drug Administration (FDA Philippines) は、診断・治療など医療目的で使用するソフトウェアを、Software as a Medical Device (SaMD) として医療機器規制の対象に位置づけている。 SaMD はリスクに応じてクラス分類 (A～D) され、販売には製品登録 (CMDR) および事業者ライセンス (LT0) が必要となる。 また、ASEAN Medical Device Directive (AMDD) に基づき国際整合が図られているが、フィリピン国内での個別承認は必須である。
------	--

管理機関	Philippine Food and Drug Administration (FDA Philippines)
------	---

(出典：Republic Act No. 9711 ※通称：FDA Act of 2009)

(2) その他障壁

- 通信インフラの地域差
- フィリピン国内データセンターを使用した医用画像保全への対応
- 医療 IT に対する医療従事者（医師・技師やその管理者など）の理解・習熟度の差

これらに対しては、PoC（実証導入）を通じた段階的導入と、現地パートナーとの協業による運営支援が不可欠である。

6. ビジネスモデル（実施体制／顧客やパートナーに提供する価値等）

当社と現地パートナー企業（販売代理店・HIS／医療機器販売会社等）との協業による実施体制を前提とする。当社（日本法人）とフィリピン法人（現地法人）は共同で PACS およびクラウド型 PACS サービスの販売事業をそれぞれの市場に提供、およびこれらの製品のシステム設計、開発（バージョンアップ）を実施する。

●顧客（病院）に提供する価値

- ・診断の迅速化・質の向上
- ・専門医不足の補完（遠隔読影）
- ・高額 IT 投資を不要とする低コスト導入ソリューションの提供
- ・医療連携の効率化による業務負担軽減

●パートナー企業（販売代理店・HIS／医療機器販売会社等）に提供する価値

- ・継続的なサービス収益モデル
- ・医療 IT 分野での差別化されたソリューション

本事業は、クラウド課金（月額の使用料金を継続的に請求）やメンテナンス契約（月次／年次などの期間契約による保守料金を継続的に請求）などのサブスクリプション型収益モデルを含む事により、新規導入での一時的なシステム販売収入発生後も、継続的な収益構造を確保することで持続可能な事業構造を有している。

本ビジネスを推進する上での実施体制と個々の主な役割や提供サービスについて以下に記述する。

	提供するサービス・役割
日本法人（当社）	・日本における 20 年以上の医用画像管理システム販売ビジネス ・運用ノウハウ提供とフィリピン法人へのサポート支援 ・既存の各種ソフトウェアパッケージのフィリピンへの提供 ・本プロジェクトから得る、新ソフトウェア・新サービスの日本国内への事業展開
フィリピン法人	・潤沢で追加可能な開発体制と、迅速なソフトウェアの開発 ・改善版のリリース ・現地医療機関からのフィードバックによる、迅速なローカライズ作業や新ソフトウェア開発 ・フィリピン国内の顧客への PACS・クラウド PACS サービスの提供と販売業務の推進
代理店 （SI 企業）	・フィリピン国内でのハードウェア／ネットワーク機器の導入 ・フィリピン国内での顧客への一次サポート窓口 ・フィリピン国内でのハードウェアを含んだ提案時の販売代理店（窓口）
代理店 （医療機器メーカー）	・フィリピン国内での医療機器導入時の PACS 付属等の営業協力
代理店 （HIS メーカー）	・フィリピン国内での HIS 新規導入時や、HIS 導入済み施設への PACS 販売営業協力
インターネット事業者 （PLDT 等）	・医療連携ネットワークなどの提案時のインテグレーション協力
Starlink 社 （DATA LAKE）	・医療連携ネットワークなどを、インターネット接続性が悪い島嶼部等で提案する際のインテグレーション協力

7. 将来的なビジネス展開、ロードマップ（企業秘密のため非公開）

II. ロジックモデル

●インパクト：

本事業は、医用画像管理システム（PACS）およびクラウド型医用画像連携サービスの導入を通じて、フィリピンにおける医療情報のデジタル化と医療機関間の連携を促進し、同国が抱える医療アクセス格差の是正に貢献することを目的とする。

フィリピンにおける医療の本質的な課題は、全国民が適切な医療サービスに十分アクセスできていないことである。提供者側の観点から見ると、この課題は主に

- ① 医療施設数の不足
- ② 医療従事者（特に専門医）の不足
- ③ 地域間における医療水準の格差

といった構造的要因によって生じている。特に島嶼国であるフィリピンでは、都市部に医療資源が集中する一方、地方や離島地域では専門医へのアクセスが困難であり、診断の遅延や患者の長距離移動などが大きな社会課題となっている。今後も人口増加が継続することが予測される中、医療施設や医療従事者を短期間で大幅に増加させることは現実的に難しく、医療サービスの供給不足を補うためには、既存の医療資源をより効率的に活用し、各地の医療提供能力を向上させることが重要となる。そのためには、医療情報のデジタル化、医療機関間ネットワークの構築、遠隔医療の活用などを通じた医療システム全体の高度化が不可欠である。

本事業で提案する PACS およびクラウド型 PACS サービスは、医療画像のデジタル化と安全な共有を可能とする医療情報基盤であり、地方医療機関と都市部の専門医を結びつける遠隔画像診断の実現を支えるプラットフォームとして機能する。これにより、離島地域や地方医療機関においても高度な画像診断支援を受けることが可能となり、専門医不足の補完、診断の迅速化、医療の質の向上が期待される。

さらに、医療機関間の画像共有や遠隔読影の仕組みが整備されることで、医療資源の広域的な活用が可能となり、地域医療ネットワークの形成が促進される。これにより、患者の移動負担の軽減、重複検査の削減、診断の迅速化などを通じて医療効率の向上が期待される。

また、本事業で構築される医療画像データ基盤は、将来的には AI による診断支援や医療教育、臨床研究などの高度医療サービスの発展にも寄与する可能性があり、フィリピンの医療 DX を推進する基盤として機能することが期待される。

これらの取り組みを通じて、地方と都市部の医療格差の是正、医療アクセスの改善、および医療サービスの質の向上を実現し、フィリピン政府が推進する Universal Health Care (UHC) の実現に長期的に貢献することを本事業の社会的インパクトとする。

●裨益者について：

裨益者	裨益種類	裨益者の種類	内容
病院・医師	直接	医療機関・医療従事者	業務効率化、診断能力向上
患者	最終	医療受益者	医療アクセス改善、健康改善
保健省・保健局	間接	行政指導者	政策運営能力強化

ロジックモデル：

